

# 図書館だより

— 新入生歓迎号 —

第43号 平成20年4月9日  
高松工業高等専門学校図書館  
TEL (087) 869-3813  
FAX (087) 869-3948

## 新入生の皆さんへ

図書館長  
権藤 典明



新入生の皆さん、御入学おめでとう。これから始まる高専生活が、皆さんにとって、実り豊かなものになることを祈ります。

高専では、皆さんがこれまで過ごしてきた中学校までとは異なり、自ら学び、考えることが必要になると思います。授業中に理解できなかった問題が増えるかも知れませんが、レポートを書いているうちに、どうしてそうなるのか分からない疑問や、もっと調べてみたいことがでてくるに違いありません。

そういう場合、級友たちや先生に尋ねることも有意義でしょうし、パソコンやケータイであれこれ検索してみることで解決することも多いでしょう。でも、図書館にはそうした疑問に答えたり、さら

なる不可思議に誘ってくれる参考図書が備えられている、この『図書館だより』に掲載されている先輩たちの原稿は、皆さんに、そう助言したいのではないのでしょうか。これは、先輩たちが薦める図書館への入り口です。

図書館への入り口はほかにもあります。図書館には“調べるための本”だけでなく、“楽しむための本”もあります。こちらは読むのが“おもしろい本”です。ただ、難しいのはそういうおもしろい本がなかなか見つけれられないことです。これは誰もが経験することでしょうし、先生や友人が薦める本がおもしろいとは限りません。そのために、読書そのものに興味をなくした人も多いことでしょう。

しかし一方で、新たな世界に目を開かせ、自分の人生を豊かなものにしてくれる本がどこかに存在することも、まずまちがいのない事実だと思います。自分にとっておもしろい本を探すために、皆さんが、まずは図書館の入り口をくぐってくれることを期待したいと思います。

## 修了生から

### 心に広がりをもたせて

機械電気システム工学専攻科修了生  
吉林 拓也



専門分野の実験レポートを書く際、どうしても教科書で補足しきれない部分があります。図書館をよく訪れるようになったのはそういう理由からでした。故に自分の図書館の利用を振り返ってみると、それは「読書」というよりも「参考書」のようなものだったと感じます。読書という行為自体嫌いではありませんが、本科生のときはとにかく時間がなく、期日に追われて過ごしていたような気がするので、正直本と呼べるような本は読んでいませんでした。

専攻科生になり、自分の時間に少し余裕を持てるようになってからは小説などをゆっくりと読みはじめました。それまでに読んでいた本と言えば、漫画かビジネス書か自己啓発の本くらいだったので、何かと新鮮に感じたことを覚えています。綴られ

た文章からは、感動や物事の見方・考え方など多くの影響を与えられ、今まで本を読んでいなかった自分を悔いたりもしました。

現在、「様々な視点から物事を考える」という能力が技術者に求められていますが、その能力を育てるものは遊びや勉学を含めた、学生時代に得られた数多くの経験だと私は考えています。学業のみに偏重していた私の学生生活から考えると、その時期を高専で過ごす学生の方々にとって、工業に特化・専門化した教育プログラムは「物事に対する視点や考え方」を狭めてしまいがちのように感じます。時間に余裕のない中で、未知の物事に挑戦して経験を積もうというのは無理な話かもしれませんが、そのような状況下にあるからこそ、「本」を読んで欲しいと思います。本を読み、学ぶことは、自身で体験することと同じように、心に経験を積み重ねることになり、視点に広がりをもたせることに繋がると考えるからです。

読むペースは人それぞれ。毎日一文ずつでも良いと思います。その一文があなたにとって、大きな影響を与えるものになるかもしれないのですから。

## 卒業生から

### 「教えたくない図書館」

電気情報工学科卒業生 喜田 慎也



結論としては、図書館を利用した方がいいと思う。ただ、この学校の図書館をよく使う人ほど、図書館を利用したほうがいいとは言わないだろう。なぜなら、人にあまり教えたくないほど便利であるからだ。人はどうでもいいことは他人に話したがるくせに、本当に重要なことは他人に言いたがらないという傾向が見られる。だから、高専の図書館利用を勧める人はあまり多くないだろう。かくいう自分も、卒業する身であるからこそ図書館の利用を勧めるが、在校生であるならこういうことはないだろう。

ここで「なぜ教えたくないのか?」「何がよいのか?」これらについて説明したいと思う。

まず、「なぜ教えたくないのか?」について。これについては単純なことである。世の中の大抵のものに

は数に限りがあるからだ。利用者が増えるにつれて、自分の借りたい本が他人に借りられているという可能性が増える。また、本を読んだり、勉強したりするための机も確保しにくくなってしまふ。

では、他人にあまり言いたくないほどに図書館は「何がよいのか?」。

高専では名前の通り、専門的なことを学ぶ。そのため、用いる本も専門的である必要があるため、普通の図書館に置いてないことが多々ある。そこで、高専にある図書館を利用するのだ。特に、実験レポートや卒業研究では、高専の図書館の本は重宝される。また、テスト勉強をする場所としても優れている。静かで机の設置があり、先程述べたように、参考書があるのだから、当然である。自分も、入学してから2、3年はまったくといっていいほど利用しなかったもので、その期間を少し後悔するくらいのものである。

何にせよ、図書館は高専生活では欠かせない場所の一つであるということだ。利用したことのない人は騙されたと思って利用してみたほうがいいと思う。逆に、すでに利用している人はあまり言いふらさず、ひっそりと利用したほうがいいと思う。

### 図書館を利用して

建設環境工学科卒業生 梅本 忠彦



僕が図書館をよく利用するようになったのは、教室と図書館が近くなった3年生の頃だったと思います。図書館は冷暖房が整った快適な場所で、漫画や雑誌が思ったより多く置いてあり、息抜きをするには丁度いい場所です。レポートに疲れた人や落ち着きたい人にぴったりです。

もちろんレポートや資格試験の勉強にも、うってつ

けの場所です。静かで快適だし、参考書もTOEIC、漢検、専門の本となんでもあります。特に専門書の数は高専で学習する分野に限れば驚くほど多く、その辺の本屋や公立図書館にはひけをとりません。本屋で参考書を買うより図書館で借りる方が、お金も有意義に使えずっといいと思います。僕も測量関係の資格試験でずいぶんお世話になりました。

卒業を前に、もっと利用すべきだったと後悔しています。DVDもほとんど見てないし、CDや本のリクエストをしたことがないので、一度やってみればよかったと思っています。

在校生、新入生のみなさんも図書館に足を運んで、うまく利用して下さい。また、図書館は静かに、貸出期間を守って利用しましょう。

## 図書委員会から

### ブックハンティング

4年E組 矢野 正人



例えば、キミがある本について知っているとする。そいつにはある種の感動に由来する価値がある。キミはそれを好んでいる。

では、キミの執るべき行動はなんだろうか。その本が既に多くの人に愛され、記憶されているものであれば、それでいい。だが、余り知られず、不運にも埋もれているとすれば、それはとてもよくない。仮に前者であっても、此処の図書館が蔵してなければ意味がない。

言語を介するミームは記憶され伝播することで交配

し繁栄する。一方で、知られぬ文化は絶滅していく。

我々図書委員会は蜜蜂のように、ミームの結合と増殖の手伝いをしている。それが、つまり、我々にとって最大のイベント・ブックハンティングである。

我々の知る一冊ないし多くの書籍を図書館の書架に並べることを、ブックハンティングは目的としている。そして、我々はこれに一定の成果を上げている。

異質とも思えるラインナップ、価値を見出さざるを得ない書架の並びには、年に二度行われる蜜蜂の働きが浅からず関係している。そして、

ある特質的でユニークな本をキミは知っている。もし、それが図書館に揃えられていなければ、我々には新しい蜜蜂を迎える準備があると知っておいてもらいたい。

次のブックハンティングは、前期中間試験の最終日に行われる。多分。

## 本等との出会い

### 『父子鷹』『おとこ鷹』

一般教育科 権藤 典明



私にも、これまでに何度か読み返し、いったん読みはじめると、途中でやめることができなくなるほど、おもしろい小説がいくつかあります。

子母澤寛氏の『父子鷹』『おとこ鷹』は、そうした小説の一つです。手もとにある新潮文庫の発行年をみると1974年ですから、学生時代にはじめて読んだことになります。この原稿を書くために、久しぶりに読み返してみましたが、今回も、後期末試験の採点を早く終わらせなければとあせりながら、ついつい最後まで読み通してしまいました。

この作品は、幕末から明治にかけて活躍した勝海舟と、その父小吉を主人公としたものです。勝海舟といえば、1860年、咸臨丸の艦長として太平洋を横断した人物、1868年3月には、西郷隆盛と会見して、江戸無血開城を実現した人物として有名ですが、この作品は、1855年10月に、徳川幕府が開設した海軍伝習所の生徒監として、33歳の勝海舟が長崎に赴くところで終わります。

はじめてこの本を読んだときには、有数の剣豪でありながら、一生無役の貧乏御家人として終わった勝小吉の生き様や、『ツーフハルマ』（蘭和辞書）全編を二度筆写したという、勝海舟の蘭学修行への精進などをおもしろく読んだことを覚えています。

それから、これらの作品に惹かれて、晩年の小吉が記した、彼の自叙伝『夢酔独言』と、海舟の語録『氷川清話』（いずれも角川文庫）を読みました。すると、小吉自身が告白している彼の人生と、子母澤氏が描く小吉の人物像に大きなズレがあること、そこには、幕府直参旗本であった、子母澤氏自身の祖父への思い入れが込められていることを知りました。

一方で、伝馬町の牢を破って逃亡していた蘭学者高野長英が、若き日の海舟をたよって訪れてきたというエピソードなどは、『清話』にも出てくる史実です。文学作品で扱われた歴史上の人物の、虚の部分と実の部分の関心に興味を持ちました。

そして、今回読み返して一番心に残ったのは、晩年の小吉と海舟の父子関係を含む家族問題です。娘順と蘭学者佐久間象山の結婚を案ずる父親小吉の姿は身につまされました。読むたびに新しい発見があること、これがこの小説の魅力ではないかと思います。

### りんごが食べたい ねずみくん

電気情報工学科 村上 幸一



夜寝る前に、子供に絵本を読んであげています。2歳になる下の娘は、最近本棚から自分でお氣にいいの本を持ってこれるようになったのはいいけど、どうにも危なっかしく横になっている私の顔に、本を落としそうになることがしばしばあります。

時に、「鳥の図鑑」とか「魚の図鑑」などを一生懸命もってこようとするその姿は、とてもかわいらしく思えて、これでもし“図鑑を顔に直撃させられるかもしれない”という事実さえなければほほえましい、と感じられるようになるかもしれません…

「夜寝る前に、図鑑を持ってくるのはやめようね」という説得は効を奏したのか、最近娘は、軽い本を持って来てくれるようになりました。

今日紹介する「りんごが食べたいねずみくん」という本は、10cm×10cmくらいの、小さな小さな絵本でねずみが主人公です。

ねずみは、高い木の上りんごがなっているのを、じっと見上げています。彼はりんごが食べたいのです…でもねずみだから、高い木になっているりんごがどうしてもとれません。

1ページごとに別の動物がやってきて、りんごを1つずつもって行ってしまいます。それを見ながらねず

みは思います。

ぼくも空を飛べたらいいのになあ

ぼくも木に登れたらいいのになあ

ぼくも鼻が長ければいいのになあ

その人のものをうらやむ姿が、なんだかとても他人には思えません。

そこにアシカがやってきます。

通りすぎたアシカに、ねずみは言います。

君は空が飛べるかい？

君は木に登れるかい？

君は鼻が長いかい？

じっと話を聞いていたアシカは、「僕にはどれもできないや」と、言います。

ただその後、「でも…」と、言って、ねずみをボールのように、鼻で木の上まで放り投げて、そして、ちょうど2個残っていたりんごを、二人で仲良く食べました。

絵本は、これでおしまいです。

結局、下の娘は、この一冊で満足することもなければ、寝付くわけもなく最後は妻が寝かしつけてくれています。ぼくも寝かしつけができたらいいのになあ…

なんでも、うまくこなせたらいいのになあ…と、思ってしまう自分がいるのですが、他人のことをうらやましがった所で、仕方がなく、自分は、自分にできることをやる他ありません。

この絵本は宮脇書店 南本店で買いました。もし、お寄りになれることがあれば、是非ご覧になってみてください。

**歴史Web**

新着

藤井 青銅 (日本文芸社)

邪馬台国のホームページや、武田信玄ってどうよなんて板があったら…2000年前からインターネットが存在したらこんな感じという一冊。ネットサーフィンに飽きたら眺めてみてはいかがでしょうか。

機械工学科教員 吉永 慎一

**お金で死なないための本**

新着

宇都宮健児 (太郎次郎社エディタス)

「お金を借りる」という行為について考えるための本です。「お金を借りる」とますますピンボーになることをイラストでわかりやすく教えてくれます。学校の勉強とはほとんど関係ありませんが、生きていくうえで知っておくべき知恵を身につけましょう。

制御情報工学科教員 平岡 延章

**理系のための口頭発表術(ブルーバック1584)**

新着

ロバート・R・H・アンホルト著  
鈴木炎/イイイン・サンディ・リー訳 (講談社)

おもしろい発表とはどのようなものか？準備の仕方、ストーリーの組み立て方、話し方、パワーポイントの使い方など、聴衆を魅了するために必要な技術がわかりやすく記述されています。卒研発表や学会発表の前に一度読んでみることをおすすめします。

機械工学科教員 小島 隆史

**ドキュメント新潟県中越地震 奇跡の復旧  
建設技術者たちの闘い**

日刊建設工業新聞社 編集局 (日刊建設工業新聞社)

本書は、日本列島のいたるところにある活断層のズレによる突然の被災した、中越地震発生から約2ヵ月間の様々な復旧工事に携わった建設技術者たちの思いや活躍にスポットをあてた記録である。また、建設業の災害予防の出動等の実施作業のほとんど報道されていない事柄が理解できる。

建設環境工学科教員 松原 三郎

**千利休**

新着

清原なつ (本の雑誌社)

好きなマンガ家は？ときかれれば20人くらいはすぐに出てくるけれど、その中で私にとって特別なマンガ家が3人いる。その一人が清原なつです。

(後の二人についてはまたいずれ)

この茶道の創始者千利休の生涯を描いた近作も、いつものとおり繊細でしかも知的なひねりがしっかり効いた清原なつのタッチ。お茶に興味のある人はもちろん、信長/秀吉の時代に興味のある人にもお薦めしたい。

一般教育科教員 高橋 宏明

**ポルシェの生涯 その時代とクルマ**

新着

三石 善吉 (グランプリ出版)

名門スポーツカー・メーカーの創設者であり、自動車の歴史に輝かしい功績を残した天才エンジニア、フェルディナント・ポルシェの評伝である。特に彼がナチスと手を結び、名車「フォルクス・ワーゲン・ビートル」を開発するに至る経緯に焦点が当てられている。

また、速度無制限で有名な自動車専用道路「アウトバーン」の建設についても詳しく解説されており、興味深い。自動車開発の歴史はもちろん、ドイツ近現代史に関心を持つ人にお勧めしたい一冊である。

一般教育科教員 與田 純

**なぜ、働くのか**

新着

田坂 広志 (PHP総合研究所)

人は誰もが生活するためにも働くということに最も多くの時間とエネルギーを費やします。本書では、どうすれば働くことに生きがいや喜びを見出すためのヒントになると思われる多くの人々のエピソードを集め、紹介しています。働くこと、仕事についての名言名句も掲載されています。

卒業生 佐野 大介

**文書表現技術ガイドブック**

新着

岸 学 (共立出版)

情報を整理しわかりやすく伝えるための表現技術を読者の視点に立って解説した本、皆さんの書くレポートや答案は、読み手を意識したわかりやすい書き方になっていますか？この本を読んで、文章によるコミュニケーション能力を培い、お精けの部分点から、堂々の満点答案へ！

制御情報工学科教員 平岡 延章

**デザインが「交通社会」を変える  
美しい国土、魅力ある交通**

国際交通安全学会 (技報堂出版株式会社)

デザインの語源は、「計画し、記号化する」意味のラテン語である。建設分野におけるデザインの言葉には、「ある問題を解決するために、その問題に関わる考え方や概念を検討し、具体的な計画を立て、それを実現するまでの全工程を表す」意味がある。交通社会の現状と未来を描いた本。

建設環境工学科教員 松原 三郎

**刀語(カタナガタリ)**

西尾 維新 (講談社BOX)

このお話は、西尾維新ファンは必読です。とはいえ、全十二巻ですが、僕が借りようとしても借りられていたりして、西尾維新を知っている人は読んでくれていると思うので、知らない人に紹介するとすれば、西尾維新は、好きになる素質があれば一冊読めば次を読みたくなる度合いがすごく、とりあえずハマります。読む本が無いなあとか、本とか読まないという人も刀語もしくはクビキリサイクルを一度読んでみて下さい。

5年M組 井上 真吾

推

薦

図

書

**ゴールデンランバー**

伊坂幸太郎 (新潮社)

伊坂幸太郎、天才！読み終えた途端思わず言ってしまう。今回の作品も期待を裏切らなかつた。バラバラだったパズルが次々と見事に納まって、最後まで美しい絵が出来上がる。少し複雑な思いは残るものの、なぜか爽やかに読み手の胸の中が浄化される心地がする。ホラホラ、読まなきゃ。

5年C組 森澤 海里

**ボトルネック**

新着

米澤 穂信 (新潮社)

見知った場所、見知らぬ風景、見飽きた景色、見果てぬ世界。やりなおせるならー 生まれるずっと前から。そう、後悔した。

物語は東尋坊で始まる。恋人を弔う為そこを訪れた彼は、不意に生まれなかった姉の生まれた世界へ飛ばされる。それは、希望しかない白日夢。

4年E組 矢野 正人

**クビキリサイクル**

西尾 維新 (講談社)

必勝法のないゲームというものをご存知ですか。将棋やオセロ、迷路には必勝法というものがちゃんとあります。必勝法のないゲームをあなたはほしくないですか。この本のゲーム(トリック)には必勝法はありません。あなたの必勝法はこの本には通じない!!!

2年E組 田口 拓明



**こころ**

夏目 漱石 (集英社文庫)

語り部である「私」が鎌倉の海で出会った「先生」の不思議な人柄に強く惹かれ、関心を持つ。好きな女性を手に入れるために友人を自殺させてしまったという「先生」の苦悩を遺書によって知る。この話は大きく3つに分かれている。3年の国語では一部しかやらないが、すばらしい話なのでぜひ読んでほしい!

4年M組 双田 慎二

**ナゲキバト**

新着

ラリー・パークダル (あすなろ書房)

この本の主人公の男の子、ハニバルは九歳のときに両親を亡くしたため、おじいさんに引き取られます。そこでハニバルはおじいさんから生きることの大変さ、そしてすばらしさを教えられます。いつまでも変わることない静かな感動を、この本は私に与えてくれました。お薦めの一冊です。

3年S組 西原 智之

■CD新着紹介

タイトル	アーティスト	タイトル	アーティスト
アニマル・ラヴァー	ザ・レジデント	アイ・アム	クリセット・ミッシェル
ベスト・コレクション	マイケル・ヘッジズ	恋とはどんなものかしら	シュワルツコップ
Fantastic OT9	奥田民生	ピラミッド大作戦	ダフト・パンク
モーフ・ザ・キャット	ドナルド・フェイゲン	デス・イズ・ティス・コミュオン	ハイ・オン・ファイヤー
ザ・ベスト	ジェーン・バーキン	イヤ〜ゼロ〜零リミックス	ナイン・インチ・ネイルズ
デイトアーズ	シェリル・クロウ	オーディオ・ワー	インソルニス
フランティック	ブライアン・フェリー	ライフ・イン・カートゥン・モーション	ミーカ
ユリイカ	ジム・オルーク	ラヴ・レヴォリューション デラックス・エディション	レニー・クラヴィッツ
ザ・フライング・クラブ・カップ	ペイルート	タイム・コントロール	上原ひろみ
タクラマカン	佐井好子		

■DVD新着紹介

タイトル		
プライドと偏見	スターダスト	ホリディ
フリーダム・ライターズ	24-TWENTY FOUR-シーズンV	バグダッド・カフェ
真珠の耳飾りの少女	バベル	トランスアメリカ
半落ち	バッテリー特別版	ALWAYS 三丁目の夕日
ボーン・アルティメイトム	スパイダーマン3	大誘拐

## ■図書新着紹介

書名	分類記号	著者名	書名	分類記号	著者名
男の作法	159	馬場啓一	すいさいNO.3	724.4	グラフィック社すいさい編集部編
戦争の日本史1:東アジアの動乱と倭国	210.3	森公章	水彩アート入門	724.4	フォーラム11編
戦争の日本史2:壬申の乱	210.3	倉本一宏	水彩アート	724.4	フォーラム11編
戦争の日本史4:平将門の乱	210.3	川尻秋生	水彩用具と基礎知識	724.4	レイ・スミス
戦争の日本史5:東北の争乱と奥州合戦	210.3	関幸彦	内田正泰作品集:日本の詩	726.9	内田正泰
戦争の日本史7:蒙古襲来	210.3	新井孝重	内田正泰作品集:四季の詩	726.9	内田正泰
戦争の日本史8:南北朝の動乱	210.3	森茂暁	字がうまくなる三分間上達法	728.9	和氣正沙
戦争の日本史12:西国の戦国合戦	210.3	山本浩樹	伝わる売れる!仕事によく効くデカメ撮影術	743	久門易
戦争の日本史13:信長の天下布武への道	210.3	谷口克広	シャッター速度・絞りの決定	743	井村淳
戦争の日本史14:一向一揆と石山合戦	210.3	神田千里	フレーミング実例事典	743.5	山口高志
戦争の日本史15:秀吉の天下統一戦争	210.3	小和田哲男	日本風景写真協会選抜作品集Ⅱ:四季のいろ	748	日本風景写真協会会員写真
戦争の日本史16:文禄・慶長の役	210.3	中野等	日本風景写真協会選抜作品集Ⅲ:四季のいろ	748	日本風景写真協会会員写真
戦争の日本史17:関ヶ原合戦と大坂の陣	210.3	笠谷和比古	季節の風景	748	読売新聞大阪本社写真部編
戦争の日本史18:戊辰戦争	210.3	保谷徹	歌がうまくなる本	767.1	亀淵友香
戦争の日本史21:畿内戦とデモクラシー	210.3	小林啓治	女性のための筋力トレーニング	780.7	R-body project監修
戦争の日本史22:滿州襲撃から日中全面戦争へ	210.3	伊香俊哉	素数ゼミの謎	780.7	吉村仁
戦争の日本史23:アジア・太平洋戦争	210.3	吉田裕	星野仙一に学ぶ部下覚醒の心理学	783.7	児玉光雄
図説大江戸さむらい百景	210.5	渡辺誠	テニギー・セリングstandard book advance	785.7	佃昭二
ぼくもあなたとおなじ人間です。	289.3	ジム・ウーテン	「古の武術」に学ぶ	789	甲野善紀
日本の路地裏100	291.087	佐藤秀明監修・写真	吾輩は「黒帯(ブラックベルト)」である	789.2	林信吾
なぜ高卒の就職率は「100%」なの?	377.3	佐々木章太	きれいな言葉づかいと好感度アップの歌謡	809.4	杉本祐子
綺麗をつくるマナーとことばづかい	385.9	市田ひろみ	新TOEICテスト直前の技術(テクニク)	830.79	ロバート・ヒルキ
大人の「理科力」ドリル	404.9	大人の「理科力」開発研究会	TOEFLテスト完全攻略模試3回分	830.79	川手ミヤジエイエフスカ恩
理系のための口頭発表術	407	ロバート・R・H・アンホルト	TOEFL TEST対策IBTリスニング	830.79	田中知英
数学ガール	410.4	結城浩	ETS公認ガイド新TOEFL IBT	830.79	Educational Testing Service編
桜の雑学事典	479.75	井筒清次	TOEFL TEST対策IBTライティング	830.79	安藤新
新日本の桜	479.75	木原浩写真	TOEFL TEST対策IBTスピーキング	830.79	川端淳司
手の五〇〇万年史	491.197	フランク・ウィルソン	禁断のパンダ	913.6	拓末司
工業英検1級問題集	507.7	日本工業英語協会編集	池袋ウエストゲートパークⅢ:骨音	913.6	石田衣良
工業英検2級問題集	507.7	日本工業英語協会編集	親指の恋人	913.6	石田衣良
工業英検3級問題集	507.7	日本工業英語協会編集	犬と私の10の約束	913.6	サイトウアカリ
工業英検4級問題集	507.7	日本工業英語協会編集	阪急電車	913.6	有川浩
トイレの法則	518.54	星野延幸	塩の街	913.6	有川浩
エンジン・ガソリン/ディーゼル	533.4	若林克彦	桃山ビートドライブ	913.6	天野純希
和の菓子	588.36	高岡一弥アートディレクション	グレート生活アドベンチャー	913.6	前田司郎
できる男は家事も上手い!	590	中高年の暮らし向上委員会編	警官の血	913.6	佐々木謙
直島瀬戸内アートの楽園	706.9	秋元雄史	八日目の蝉	913.6	角田光代
日本の文化的景観	709.1	文化庁文化財部記念物課監修	ユゴーの不思議な発明	933	ブライアン・セルズニック
墨絵旅のスケッチ	721.9	磐広人	スターガール	933	ジェリー・スピネッリ
すいさいNO.1	724.4	グラフィック社すいさい編集部編	二つの旅の終わりに	933.7	エイダン・チェンバース
すいさいNO.2	724.4	グラフィック社すいさい編集部編			

## 新スタッフ紹介

図書館長 榎藤 典明  
 図書館 辻井 佐代子  
           武内 志保  
           轟 あさ子(夜間担当兼務)  
 夜間担当 中田 雄也  
           梅本 忠彦  
           多田 達弥

どうぞ気軽に声をかけてください。  
 よろしく申し上げます。

## 編集後記

1月に、この「図書館だより」について、学生の皆さんにアンケートをお願いしました。HP上に公開するだけで十分だという意見と、そうならば、ますます読む人がいなくなるという意見とが半々でした。そこで、図書委員の先生方の了解を得て、冊子の発行を続けることにしました。より親しまれる「たより」にするためにはどうしたらよいか、皆さんの意見や希望を寄せてください。